

普及活動現地情報 「農業現場では、今」

令和3年1月号



【海草振興局】重点プロジェクト

【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～「蔵出しみかん」蔵の見学会を開催～

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～「蔵出しみかん」蔵の見学会を開催～	
2. ビワの凍害調査を実施	
3. ダイコンの優良品種選定試験を実施中	
4. 和海地方新規就農者研修（野菜コース）を開催	
II 那賀振興局	3
1. 紀の川市4Hクラブで炭焼き研修会を実施	
III 伊都振興局	4
1. 小学校でみそづくり伝承活動を実施	
IV 有田振興局	5 - 6
1. ウメ「南高」のカットバック剪定講習会	
2. 「日本のみかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」、「高野山・ 有田川上流域の持続的農林業システム」農業遺産登録に向けての 2次審査へ	
V 日高振興局	7
1. 日高地方花き連合会「花き品評会」、管内高校への花束配付を実施	
VI 西牟婁振興局	8 - 9
1. イチゴ栽培での品質の向上、収量アップを目指して	
2. 水稻種籾安定生産に向けて研修会を開催	
VII 東牟婁振興局	10
1. じゃばらのカンキツ幹腐病対策実証ほで防除対策を検討	
VIII 経営支援課（農業革新支援センター）	11
1. 和歌山県農業士会連絡協議会 第3回役員会、研修会を開催	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～「蔵出しみかん」蔵の見学会を開催～

1月20日、農業水産振興課では下津みかん産地の魅力を発信することを目的に、JAながみねと連携して報道機関向けの「蔵出しみかん」蔵の見学会を開催した。当日は、報道機関3社が参加し、JAながみね夢蔵選果場と柑橘部会員の貯蔵蔵を見学した。選果場の見学中には「蔵出しみかん」の販売促進活動として、生産者、JA、行政が連携した「しもつみかんキャンペーン」の実施状況や、2019年に認定された日本農業遺産のロゴマーク入り段ボールによる出荷状況について紹介した。記者からは選果方法や貯蔵に係る注意点、出荷先等について多くの質問が出され、「蔵出しみかん」について認識を深めていただいた。

当課では、今後も農業者や関係機関と連携しながら下津みかん産地の活性化に向けた取り組みを実施していく。



選果場見学



貯蔵蔵の取材風景

2. ビワの凍害調査を実施

海南市下津町仁義地区は県内有数のビワ産地であるが、2016年には冬期の低温により大規模な凍害が発生した経緯がある。今年度は12月下旬～1月上旬にかけて仁義地区で最低気温が-4度以下の日が複数発生したことから、農業水産振興課ではJAながみねと共同で、1月19日にビワの凍害調査を実施した。はじめに仁義地区内6園地を巡回し、各園に設置している「おんどとり」のデータ収集と幼果のサンプリングを行い、その後、JAながみねしもつ営農生活センターで幼果を半分に分けて凍害の有無（内部の変色）を調査した。

その結果、生育の早い園地の極早生品種等で若干の凍害が認められたが、全体的には少ない状況であった。

2月になると果実が肥大し、凍害を受ける可能性がより一層高まることから、当課ではJAながみねと連携し定期的に調査を実施していく。



巡回調査

3. ダイコンの優良品種選定試験を実施中

和歌山市では砂地でのダイコン生産が多く、とりわけ布引地区で作られるものは品質が良く、古くから「わかやま布引だいこん」ブランドとして流通している。

農業水産振興課では、JAわかやまと連携し当地区においてダイコンの品質維持と向上を目的に、毎年、播種時期別に4～5品種を用いた比較試験を行っている。

今年度も、9月下旬から作型ごとに慣行品種と継続検討品種、新規品種の比較試験を実施し、慣行品種の欠点を補いながら、品質で上回る新たな品種の探索を続けている。

当課では、今後も関係機関と連携しながら品質向上、安定生産に向けた支援を行っていく。



ダイコン品質調査

4. 和歌地方新規就農者研修（野菜コース）を開催

1月29日、農業水産振興課では農業試験場の協力を得て、海草管内の就農5年目までの新規就農者及びイチゴ栽培希望者を対象とした新規就農者研修（野菜コース）を開催した。本研修は、イチゴ栽培を目指す新規就農者や品目転換等でイチゴを導入する農家が増えていること、また研修テーマにイチゴを取り上げて欲しいとの要望が多いことから開催することとなった。当日は、12名の参加があり、農業試験場の中居研究員から病害虫の種類、農薬について、川西主査研究員からイチゴ栽培の基本、親株の保管方法について講義を受けた。参加者からは、施肥管理や花芽分化の促進方法などについて質問があった。

その後、試験場内の育種試験圃場及び高設栽培の見学を行った。参加者は、株の生育状態、ランナー、花房、腋芽、葉の整理の仕方などの作業方法に関するその他、環境制御装置について熱心に情報収集を行った。

当課では、今後も新規就農者の経営・技術向上のサポートを行っていく。



講習会



圃場見学

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川市4Hクラブで炭焼き研修会を実施

1月29日、紀の川市4Hクラブ（会長：米田基人氏）では、土づくり資材である炭の効能を学び、更に生産現場で炭づくりができるよう「菌ちゃんファーム製無煙炭化器」を用いた炭づくり実習を農業水産振興課北原普及指導員が講師を務め、クラブ員8名が取り組んだ。

炭窯を用いた炭焼き時間（約2週間前後）と比較すると、一回当たりの炭焼き量は少ないが短時間（2～3時間）で簡易に炭を焼くことができる。

クラブ員からは「炭の入手を目的として用いるには量が少ないため効率が悪いが、剪定枝などの未利用有機物を炭として有効利用できるのは良い」といった意見があった。

今回の研修会を通じ、土づくりに対する意識啓発を行うことができた。

当課では今後もクラブ員の技術向上に向けた支援を行っていく。



研修会

Ⅲ 伊都振興局

1. 小学校でみそづくり伝承活動を実施

農業水産振興課では、地域で作られている米みそづくりを後世に伝承し、地産地消を推進するため、小学校でみそづくり体験を実施している。

4年生で大豆について学習することに合わせ1月20日に橋本市立橋本小学校で、1月29日には橋本市立あやの台小学校でみそづくり体験を実施した。

橋本市生活研究グループ連絡協議会(会長：水落時恵氏)のメンバーが講師となり、みその種類やみそづくりに必要な材料、手順などを説明したのち、児童らがみそづくりを体験した。

当課では今後も小学生を対象としたみそづくり体験を継続しながら、一般消費者への伝承活動や手づくりみその学校給食への導入を支援していく。



生徒にみその作り方や種類などを説明



米麴を作る児童たち

IV 有田振興局

1. ウメ「南高」のカットバック剪定講習会

1月15日、JAありだウメ部会（会長：沼田繁氏）が果樹試験場うめ研究所、農業水産振興課協力の下、有田川町のウメ園でウメのカットバック剪定の講習会を役員及びJAありだ営農指導員等20名を対象に実施した。

はじめに、果樹試験場うめ研究所の城村主査研究員からカットバック処理に伴う収量低下を解消するための摘心処理について資料に基づき説明があった後、実演を交えながら剪定のポイントについて説明があった。コロナ対策のため役員対象の講習会となったが、省力かつ増収効果が得られるということで、参加者は熱心に聴講していた。



ほ場での技術説明



カットバック剪定の実演

2. 「日本のみかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」、「高野山・有田川上流域の持続的農林業システム」農業遺産登録に向けての2次審査へ

有田みかん地域農業遺産推進協議会(会長：林 隆家氏)では「日本のみかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」の世界農業遺産及び日本農業遺産登録に向け活動中であり、12月18日に実施した2次審査の現地調査に続き、今回、2次審査のプレゼンテーション審査が1月27日に開催された。

本来、東京会場において実施する予定であったが新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、資料を事前送付し、県庁会議室からリモートでプレゼンテーションを行った。審査員から「農業女子プロジェクト」への取組や産地での女性の活躍について質問があり、農業士の藤岡良子氏が丁寧に説明を行った。

また、有田振興局管内から、「高野山・有田川上流域の持続的農林業システム」が同様に2次審査に進んでおり、時間をずらしプレゼンテーションを行った。

両申請とも、回答者は自信を持って対応し、登録への自信を深めたことと思われる。



「有田みかんシステム」での質疑対応



「高野山・有田川上流域」での質疑対応

V 日高振興局

1. 日高地方花き連合会「花き品評会」、管内高校への花束配付を実施

日高地方花き連合会（会長：弓倉弘氏）は、1月22日にJA紀州がいなポートで「花き品評会」を開催した。

今回で5回目となる「花き品評会」では、過去最高となる120点の切り花や切り枝が出品された。審査の結果、有地秀和氏（御坊市）のダリア「ガーネット」と中尾輝雄氏（印南町）のスターチス「アテナピンク」が最高の金賞、野村直佑氏（御坊市）のビバーナムが特別賞を受賞したほか、銀賞5点、銅賞7点が選ばれた。昨年来コロナ禍により花き産業が大きな影響を受けている中での開催にも関わらず、多くの優れた花が集まり大変意義のある品評会となった。

また、今回は初の試みとして、出品された花を活用し高校生に親しんでもらう取組が行われた。1月25日、会員らは管内5校の高等学校を訪問し、花束と日高地方の花を紹介したリーフレット等を生徒代表に手渡し、「受験生がんばれ」、「コロナ禍で憂鬱な中だが、花が少しでも癒しになれば」、「地元を旅立って行かれる生徒が多いと思うが、街中で地元の花を見た際に故郷を思い出してほしい」などと声をかけた。受け取った生徒からは、「花を見て前向きに頑張りたい」、「きれいな花で色々な作品を作りたい」等の声があった。

今回の取組は大変好評で前向きな意見も多く聞けたことから、連合会では高校生向けの花きPR活動を行っていきたいと考えている。



金賞を受賞した有地氏（左）と中尾氏（右）



出品物を鑑賞する生産者



花束配付（日高高等学校）

VI 西牟婁振興局

1. イチゴ栽培での品質の向上、収量アップを目指して

田辺・西牟婁地域では、梅や柑橘との複合経営品目の1つとしてイチゴ栽培が行われており、14戸の生産者（栽培面積1.86ha）が地元市場や直売所の他、大阪や和歌山市の市場へ出荷している。

近年、新技術の導入を支援し生産性の向上を図る県補助事業（次世代野菜花き産地パワーアップ事業）を活用して、炭酸ガス施用機を導入する生産者が増えているが、ハウス内の環境（温度や湿度、炭酸ガス濃度等）を知ることの大切さや、環境を制御する必要性について十分に理解している農家が少ないのが現状である。

農業水産振興課では、谷普及指導員が炭酸ガス施用機を導入した2戸の生産者と相談し、ハウス内の環境を把握するため炭酸ガス濃度測定器を設置し、イチゴの生育状況と併せて定期的に濃度を測定し、得られたデータから施用時間や濃度等を生産者とともに検討している。

導入した生産者からは、「昨年11月から炭酸ガスを施用している。施用効果等については、正直、あまり良く分かっていなかった。ただ、収量は最終的に昨年と比較してみないと何とも言えないが、果実の大きさは明らかにサイズアップしているように思う」、「昨年9月にハウス内環境のモニタリング装置を設置した。モニタリングにより、ハウス内環境を見える化できたのは非常に有意義なことであり、その結果、炭酸ガス濃度の不足が明らかになったので、今年1月に炭酸ガス施用機を導入した。2番果以降の品質や収量にどのように影響するか注視したい」との意見があった。

当課では、この取り組みを通じて得られた結果を基に、ハウス内環境の把握や炭酸ガス施用機など環境制御機器の導入がイチゴ生産において有効であることを実証し、生産者の理解を深めるとともに環境制御技術を導入する生産者を支援していく。



炭酸ガス施用機を導入した農家のハウス

2. 水稲種籾安定生産に向けて研修会を開催

1月26日、JA紀南栗栖川出張所において令和3年産種籾の安定生産に向けた研修会を開催し、水稲種籾生産者4名、和歌山県農業協同組合連合会担当者、JA紀南の尾野営農指導員、農業水産振興課の村畑普及指導員と橋本技師の計8名が参加した。

令和2年産米の和歌山県の作況指数は「92」で、西牟婁管内の採種圃場においても収量は前年の86%と大幅な減収であった。減収の要因について橋本技師から、7月の長雨による日照不足とトビイロウンカによる坪枯れであることを説明し、トビイロウンカについては、病害虫発生予察注意報を参考に適宜防除を行ってほしいと呼びかけた。防除方法について尾野営農指導員から、「収穫2週間前にはトビイロウンカが圃場に侵入したものと思って防除を行い、増殖する前に個体密度を減らす必要がある」と説明があった。生産者からはトビイロウンカの薬剤抵抗性について質問があり、抵抗性が確認されている農薬や作用機構が同じ農薬の連用を控えるように回答した。

当課では、今後も関係機関と協力し、防除指導や研修会を実施して優良種籾の安定生産に取り組んでいく。

Ⅶ 東牟婁振興局

1. じゃばらのカンキツ幹腐病対策実証ほで防除対策を検討

1月28日、北山村大沼のじゃばらのカンキツ幹腐病対策実証ほで生産者と農業水産振興課職員の4名で防除対策の検討を行った。

カンキツ幹腐病（以下、幹腐病）は、枝幹部に局部的に発生し、樹皮や木質部まで腐りずり鉢状または溝状にくぼむ病気で、重症の場合は樹勢低下や枝折れが発生して減収する。東牟婁地方のような降水量が多い地域で発生しやすく、じゃばら栽培の大きな課題になっている。

実証ほでは、3月に風通しをよくするための間伐とワイヤーブラシによる病斑部の削り取り、ICボルドーの病斑部散布を行い、3月、5月、7月の3回殺菌剤を散布して幹腐病を防除した。

今年度は、幹腐病防除を徹底したことからじゃばら実証ほでの発生は全体的に減少したが、病斑部の削り取りとICボルドーの病斑部散布を行っていない枝の中ほどから先端部にかけて発生が多かった。また、園主の東氏からは「今年（令和3年）も引き続き幹腐病防除を行う。間伐することで減収したが、作業性や樹形も良くなったので、混みあっているところをもう少し間伐する」との意見があった。

当課では、今後も幹腐病防除を推進するとともに新植も推進し、果実の安定生産につなげる。



幹腐病の発生確認

Ⅷ 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 和歌山県農業士会連絡協議会 第3回役員会、研修会を開催

1月18日、果樹試験場において、和歌山県農業士会連絡協議会第3回役員会と果樹のスマート農業技術について研修会を行った。

役員会では、令和3年度総代会の開催時期、総代会後の研修会の内容について協議された。

令和2年度の総代会は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、緊急事態宣言が出されていたため書面での総会となったが、令和3年度については、感染症予防対策を行ったうえで実施する方向で決定した。

役員会後の研修会では、果樹試験場環境部熊本主査研究員から、今年度まで県内で実証試験を行っていたスマート農業機器についての概要説明を受けた後、場内ほ場で農業用ドローンやロボット草刈り機、運搬車のデモンストレーション、アシストスーツの装着体験などを行った。

参加者からは、「スマート農機には興味はあるが、まだ価格が高い」、「アシストスーツは、選果場などで使えそう」など感想が聞かれた。

経営支援課では、今後も様々な農業士会の活動を支援していく。



概要説明



アシストスーツの試着



ロボット草刈り機の見学

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489

